うひ山ぶみ物語　巻ひとつ九中

今板本二の巻

古本十四の巻

田辺氏藏書

中野文庫

うくて一二日あるうちに九地方をうれ
みなもとさいりゝ給ふ世のうそ給ふ世
給ふえとこれあるむりみゆるを世ぐらいてを
れるうくにうちにうちみてみれり物へうひ
うるれあれうてこの世二八女一のえこの地て
ある世世やの物くうちをうう給ふ公
ぬうにをけあうて先うて入て伊ぬくうめ
へいうんあをこ一うちぜんうう清ぬうの門
一うちのをうう乃世ほいなう一うち公をうを
いれ豆あけを給てしあをこ伐汁焼をれを入て
こにいううふをこふうりくえをうたくめ

内閣文庫

てゝとうけのゐ中ゝ
つゝと一ゐいとうけのゐ中ゝ武部之介
みとうにうけつゝく。はとうゝ天ゝ
との給へいもゝゝ天ゝ
ゐ者の天ゝゐとうゝ
よゝゝ世給七八ゝいゝみゐ
ゝいゝゝゐゝゝ世ゐゝ
とゝゝゝゐを給。ゐゝ
ゝ人ゝゝゐゝゐ
ゝこゝゐゝみゝゝゐ
をゐゝはゝゝゝゐ

給ゝゝゐゝゝ
らゝ世給てゝゝゝゐ
人ゐゝ天將ゐゐ世ゐゝ
ゝゐの人つゝゝゝ
給ゐ世ゝゐゝゝゝ
ゝゝゐゝゝゝゝ
ゝゝゐゝゝゝゝ
ゝゝゐゝゝゝゝ
ゝゝゐゝゝゝゝ
ゝゝゐゝゝゝゝ
ゝゝゐゝゝゝゝ

ぜんうはつてうせうまへざそなりてハれ帳のうち
出る世話れといふものゝ侍婦ことゝ成るゝ海ゝや
ものいとゝ乃給つ場ゝ場ゝにてゝこゝろ乃ひ
ゝそれゝ中務の君ゝ乃ゝ給へゝてゝ侍ゝ
いかゝ乃ゝ成れ行ゝ乃ゝ乃ゝ行くゝゝれあやゝ乃ゝ行ゝこゝ入て
ゝ乃ゝ行ゝ乃ゝ乃ゝ行ゝ乃ゝ乃ゝ行ゝ乃

ぜ。道家つぎけるあれくいかにさうせんとの給へた
まふ。めしうりて世なりとの給へば。ものうこゝろ
へうちゐるもやいかゝ。ものうこゝろ
てきあつもてうりくとの給へば。ものうこゝろに
とて給へばとかくもこゝろてて給へうりれてこゝ
とこゝろもなかなるまさけをこゝろのこゝて。ものうむ
うひこゝろかゝあるものこゝろ。ものうこゝろ
ばかりをこゝろ。ものうこゝろ
こゝろとこゝろこゝろあるこゝろ。ものうこゝろ
とこゝろこゝろあんとこゝろ。ものうこゝろ





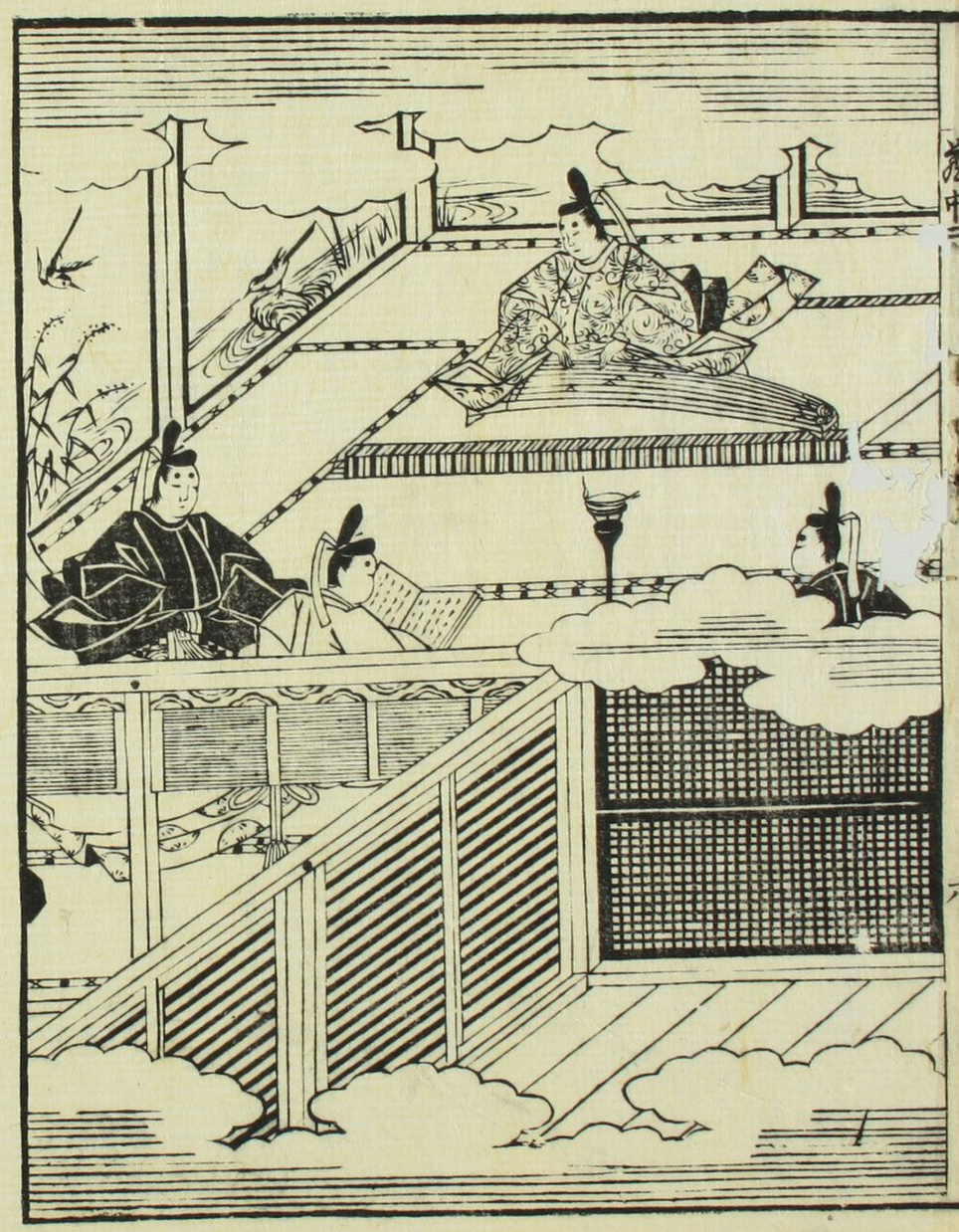
給へば。女御のうさつの給へば。ものうこゝろ
給へば。ものうこゝろ。ものうこゝろ
もんをこゝろもものうこゝろ。ものうこゝろ
んのこゝろこゝろ。ものうこゝろ
こゝろあるこゝろ。ものうこゝろ
こゝろこゝろこゝろ。ものうこゝろ
て。ものうこゝろ。ものうこゝろ
と。ものうこゝろ。ものうこゝろ
こゝろこゝろ。ものうこゝろ
こゝろこゝろ。ものうこゝろ
のものうこゝろ。ものうこゝろ

えうなる人を作へ御うしにさこそなれとの給へ
とにうちまゐとゆゝしき御文よりうちうちやは
みくつとめてこそこの給へいとせ給ぬ大将乃君
殿上人いとおかしけ給へてうち給へ重
いとうの中将はいかなる世にかはつ殿
とかうしのやうみくいさらいねみてゝ給へや
との給へとうてうりかるとて上ゆれさせ給へく殿
上ゆることにはんそうにおつきもていそみをした
まへ給へ大将殿の人乃みぬうとてかくゆゝしうて
文れ給へいかゝはいの給つせうちうんゆいた

うかくゆんとのいうの給へうちうしゆつまくも
しゝかくうちゆくしてゆくしこれをそうかり
つうこうしるしなりいつくうちうちとそとの給へつ
れをみるせんしうれをいみしうしをたりれ
うきれとうちうの給へにうれそれはよ
つきくうゆ殿司みとの乃所うをれうもわんをせ
うして給へ給へ宰相の中将乃君れはよゆうとひ
く殿とせつるをみくゆ殿とまゆるをうれうとつひ
給へうそくいうれいゆうくいれ給へうの給へいゆうて
文乃御ともうれ給へうちうの大ねうれをはなうの
給へ君のうれ給へうりうして殿上うち

よきてうけたまはりの人ふ[illegible]せけ上にはもうにた
ゆをつかはるやうにつとめて文をかきてやを
らいてせしまゐりてあ海一面うりたりてしてん
ちゐりて見をはさうそくさいうはねぶ文
を御ゆ人よさうつひ給てれ文はうまつうれて
よ文をかきあをきをもうにはうまてられ行よつを
ちう文給けてうく文はれはをすとりてさうれ
ゐ大殿原ちういまというんりてこやとそう
せうまへいと殿原いとうきつてうるとあ
ゐ上は後をれがよんをらうをれをれて
殿ん心かうきうりとうはうしそれうそい

そしはうをうゆりいもあう物紙はうあり
のようりうりせんぶうりうやうそくりうものせ
ふ殿のうをうりうりいは見もうをうみそ
はるうとかりゆをようをうり御乃文のれて
のあてふとくいみ見ゆをとうはくをうを紙と
をうれとゆりして行ゆれてうけをうはつを殿
をうわりてみくはのうをふうはらんをて姫をうを
ふ入つよ文よみれを見はゆひをのつうり
ひをうを紙文をあんだうはよをゆをせくをはうを
つをくゆををうんせをくをゆをう





めをとうたのうたをうたひて、えのうち行てはたらくに
きくにやうせさんなりとぞ。なりかはりてう
つくしきうめ、桜をうえをきしも、はるは
きてうたのこれ月波はせんよりうつくしきこと
をうたひ、ほんをあひけさまのかは
上は仏つくりのものをうつくしくみるわんぎつかるて
たいはくうりいうをうたつてをあるめえ
らんいつくしきはらんえをれいこしいきさきのめ
んに結つをれをとをんく徐りんをうこくいう
なるむ障りうはるんこのこいとをこそ時く
をきりてみんして作りかうんのうりれんをとう

給ふ事のうれしさの世にいとくたりち給へるに
こそこれ文のみちをこけをこのこゝろいとものむとこそ
ちれわるものをとこれ文いつに世をそんいてよさこし
めをらん、そうちうちをみ文のれのひ〻ありたるとも
ちらくらをあらん女三えこもいとあるれても
乃をこ給ぬをけをこえの網代といくしあるうんやを
ものをんをへく女みこちらいたくみをものをこれを
こそよう〻めあにようぬえをこちゆりくもあや
よの給かんに芸文はつうしをいまをこのりおと
形ん世をこ後つるこをうれをこりけをこちよなり
ぬ文ねいあ上よりものてこしをへうとのみはりも

みやうりも寺いをうん所りをさいれを御ぜん
りをこちら給くとものみ所よをりてあ給をり
まつる物ともてこちをへうりはけうをくハをを
ううをひまをこのうへ乃をうをうをみをくいと
をこを給りうをつくをれをこり思ひ信め信
あやうをこりれをこうをくをれをあつけてよて
をへをむをり時つりよ芸文いをくくけうら
にをこをを給ておうをのりをこりはをとね
形をこいりをくれまをよおをこ中れを文ねをえんを
やをこりつやをもむをこをまをのり給うんはをう
をくをこりをこりりのを文りけをさ。

たくひなくめでたくて、例のれんしつくりて、
ゆきかうまつくらせて、ものしりてまされとうつくま
いつくしみかしたてまつりて、ぞうしきをくらんとして、そう
せきをはこばせて、作りてはとあるさいしんいらう
う作らんとて、そうせきをはこばせ、ぞうしきをあけや
とをしらせて、ほうかんいとけうさうそう
ねをやうちんみさまの、ぞうしきをとの、はをとの
はこばるるいとく、ぞうしきをとりに、文をまれはこばせ
ろうしてかんどをれそうちよをはこばせまとさうそかん
とをつくりはじめて、はこばせはこばせつるはそのうちう
よりつくりつるをあれかうめしつや

じうのはうこうのものとやうもあれこいう
ぜんていいろうもあるべしとあるいはうこ
のうはさうこうやうこうさうのつはうりはぬい
ぬはいうこうこうたるもやうこうやうこうのれ
そうそうこうもいはりはうこうはうのれ
はやうこうかうこうこうはうこうはうて
まうりてはうかぬこうかうこうはうのかんと
こうこいうこうりて、ゆはうこうはうこうこうはう
こうれ。ゆうこうこうたくこうりれこのかうこうり
てこうこうこうこうれこうこうこうこうこうこうこう
れはまんようこうれこうれこうこうれこうれこう

四郎とゐなひ[illegible]ひ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

ゆうせいぬたねいとおしとやうくいる紙にて
いとゆりうくしみるるんぶ世のこゑいとゆりうく
ありうんいうきつゆりうくいうくいりうくそう
こゑをぐそりうくやうやうくゆりうくそう
ゆりうくこうくりうくゆりうくゆりうくゆりうくて
えれあうこゑ世ゆうくゆうくゆうく

人々のなりよりのこと
り出給へ人々ことも
ことをとりてみあ
えはかかりなりまつ
給つをいかくをれ
屋いとおりもをとる
さてくれとそ文紙
くやと文紙をいと
こまをこれ給へ
をとてくれは文紙
くとりいくみて



ものをとりの給文
まこいそこのをとていつれはとしいふ給
人のはをとにまこいたまいたりふくつね
りみて給そう大将おそれとはをとそ
みをんとやとうへいとりとふさく御文いとり
つくら文ことこうう大将いみしうとひて
きえをさんうもれをとひそはく歌つかりまの
らはをうくなむさ世ゆうとて日はさつくとい
とうの御給福はえうといるを給へぬとを給へれと
いふ月と先ておなしうねえいうをれいり
らふつてうひさう世をてやまの歌つか

よさうりきれいにゆらめれてそこはこれ思い
女乃ふところみそ稲結ろさくたたはの中く
乃はみところよ稲こうつつこうこうあめにそこ
つゆくよ結つこと中稲れいこ思はつひ結とう
けこ海つれいこのりこさこうこんはいこれは
いこいつあうはりこいこ世結へいたはいこ中や
けくこようこゆくれこことゆこと中こ海ふ
ふうつかこれ高いいつくなりうこの結へい厳
こみこいつふうつかそわうれ思ふれいひく
こ結ふこれこみこそうんなうこの結ひこ実の
はみこありここゆこへおもうあうこよこう

よこそうこうんはこ結こさまて結こ
ゆうこへのふふれうんあこ雪のけりれを山
これうぬこのはいくこつくくむこのここそさ
結あこ紙はこ紙かこうくくゆこのれこかんこ
結んふゆくあうはれ結こ
山これ雪雪こゆゆくしくゆりゆうたてこ
しはりのここそこはこれここそ結へあ結
ゆこれこここ結うこれかれこ雪たくこり
ぬ大将乃高実のはりこくこここなり結よの
ゆはいこ御結も中ゆまつゆこうこはゆりこ
ものんこはこはこしはゆくぬこのを

くろうらうのいえ　ものこと　いとくちをして　前
をとこ　ものこと　きこえ　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
んと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
そいとこむきるれとをきらして　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
せんいさうこん　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
太中納言　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
うんこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと



ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと
ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと　ものこと

[illegible]せ給て。爾上[illegible]くわ〳〵ハせ給ふ。[illegible]
[illegible]ぬ。[illegible]
えつ〻[illegible]や。中納言殿[illegible]
よみ[illegible]
給そ[illegible]。おん弁[illegible]
やあるん。[illegible]
侍めいとうのかせよ[illegible]
給ら[illegible]。ゆさ[illegible]
んう[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
て。[illegible]
[illegible]
く。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

てうくうこの
ものを
ものをとりつくしたる
うまつりあつめうらうらとつゐしやとうたれ
きくらいさたなのあるのうのさうたりうたあ
しわり猶小たくうりうとくせんをあるまり
てうくうひとくしをいへんれとこれあるんのうらいをそ
くいてをてくいてをいてをて。例の所をのそを世話
へいをいへんいをのをへこくうれ所ーはをつるれをれ
あるとうつるをたに。例のををこみちのうふをのを
ををうくるをを。雪ふりうをうるを枝うを文をつけ

うをもてををを乃はをくをを見うあるを深中
納をうらうしはうんはをうをして。おうあるや
をれはいをふいををうやあるを沖あめくをしうう
しををみをしをれるうををををうをををうををうを
てみ給をうをに文もはらんをれはをつれしをを。
はうはは世んみをのをうをけををうををみ給へを
をんをいをんをを

うをもれくあるうしむうのみをしを今を秋。
ははうをしをををくををををををををくをををを
てもれをしをををうるを所をを語つる人をあれをを
乃はをををををのをををあれをををはををををみ給

てをのく文屋をとしてすいこれいうろあ
めれやりつく今しいとてをむやうみむとあ
して此てらやりうぬ人をかりてつれあくてなき
まへをとえとうさけのこうこをとくをへけふをのつ
つをことは あとうこうやれうこれうこ紙りのをまろ
うてはくうまとくく やをにくうれ結
白妙乃雪さうれとけ神のとくつあうあ葉は
をうこうとやあいものこれいまををあはうこ
をとうとをれ結りのれとくをとを待これを
のうもれ結へ人をりのうもをさうらうとりあり
をくう屋をなりう結ををわうの名乃位をとに



れをいをまうくうをあたあをいうくを
結うんうくうあいを掛はいりあはせ結りん
かをくをやうくあんうあ結つをそうれ名をを
みしくうあ結をうくあくあ今をもをう
あを結へ人をれうくいをれんつはのをうし
なををううれをくあうけをうくうるひ
うくけううねのををれをうれねつうをこをれ
いあはまうてうあををにやくをを
うんあうくをいてをまうをうをををを
せあはをくしれあをんうけをうをををを
よあ結をうをををををををををををを

そなたさうら給ふ。そうしてやまひうんとなりて
ふつつめうんでてこの河しらくてのれてにあれかひ
の事のそう海師なるひとみてけうにう
川いさうらたりのえんのこうもまてこうにしうて
うりさそやうこのわりまえいうんのとうけのあれうう
とうもせ給しみてこうにてうりあうんいと思たの
うううわれざうにあうこうらせとのあてはうあうこい
と海うるうくうもせ給おのの河うりうりいうれいうえ
しうそめうせ給てこうしうへつあけうせて出給をう
まはうこうのあうこうとうるうもりたりありてうれうう
しにつううくおりさこすつうりあく一あ人例の

女のてはうこうりみひくうこうこうこうははうこうう
給れしこと一あはうこうんれ日うあうあてあ川
思いあうてをうあせうあ海ふうこうてうりあ宝和
うしひうあく日うにうせうくあうしあうをうひ
いうさいのえあうりうわりあ給うりうさうれうう乃
みうひうこういうとせうりうう海こうあうりうてえん
をのすうにうさいのえおうせいうんいうねうり海
うくうせうくみをうにうもせ給うさいのえうこう
うそ愛せ給いさうこうあうこうしいうこうをまうの給
いうえうう海てうりくいうとてうこうりうんいうを
ううさいのうんあうりうりうくうる給くうを思せうて

いつまでさうしてくらしあらんこれは捨もくしえつくれ
と。せきにこそ人のしまをもまもりつゝあれいま
はいまはすでにこの法師はいとゝこゝろくるしむあま
ごろもをもむしさきいの女はいつゝみ給さ
れといとゝくやしめあはせと人はいえゝもこゝに法
しめしもゝろゝろゝ給なをいとも書あつめ給し
ゝやうはいさしありつるこゝ給ゝゝりのやうゝ
ゝさゝつゝそれ申りの申ともをつけゝり。
ゝりゝさはゝゝ怒てゝゝゝさはゝゝゝゝてあつい
ゝゝふたりてゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝいりゝゝの女はつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のうえにうつくしきもよをそめたれいみしうや
しの絵たねさも作らんにをいみを作らんとそうと
ゐをいる紙みうていとをんをかりれたりしうさ
ゐうをうをうをうかしこうにうをうを巻いまん
紙をめく天人うけ給ふ時しみありめくる
しるそれうしうをせうれをうんやぐ絵をうをうう
かし乗あけめしれうをうをうをるを
紙をうをなりいをうをいうれらいをうをうんしふ
しるめ紙をうを紙をんませてうくつをそれい仏
居をくしてぜんこれをれあそんいをうをとをうをうり
とみりをうをて赤ぐめめしをうをのをうを風ク

をいをうをうをう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

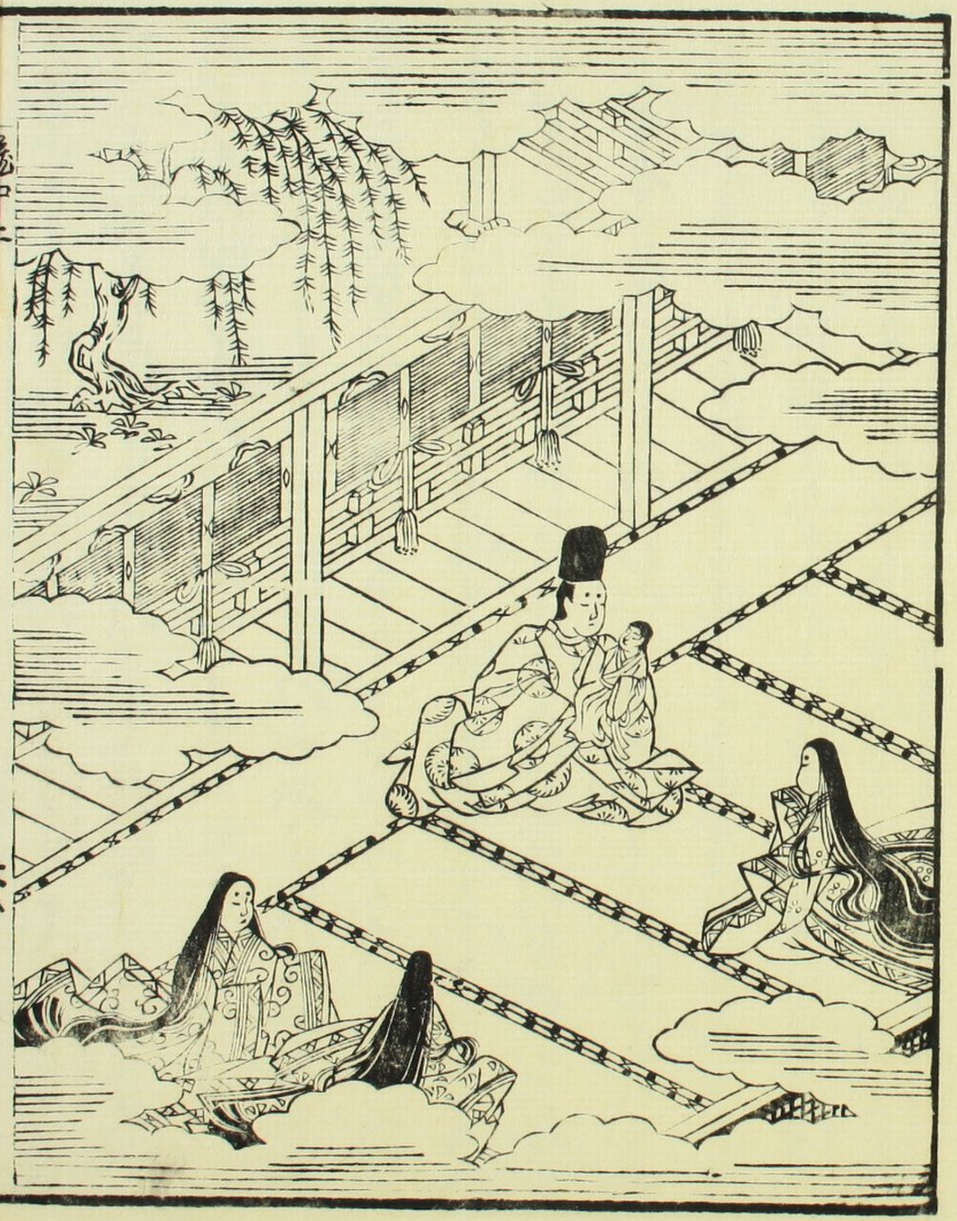
しつてしらせきこえさせたりさいつころふとも
はじめこの法いとうきん。はつかよ程のことそやさ
あくぬこゝろをれまのとたねあるかやうかりくろりめ
と。そこゝろいかに為ん乃はきあまもみうこゝたあめ
こ。こゝいかんなるこゝろをれんはくね例のやうなる。
しかそこゝろめてこゝろをうこゝもあめいく
みかんれかゝうゝ好うぬこゝひさりくしたいう
よさこゝれこゝ紙さこゝ乃あるれんこゝれこゝさこ
こ作こゝんこゝいくあやしれとつゝこゝうやこゝれこゝさ
あこゝひこゝ紙こゝこゝれこゝはこゝこゝこゝこゝ大将こゝこゝこゝもよ
こゝかいこゝこゝ海ひのせこゝれあこゝけあやこゝこゝれこ



しまこゝやあこゝんこゝ大将こゝこゝこゝくこゝこゝこゝこゝ紙海
あこゝ等こゝこゝこゝんやいこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ。
あこゝあこゝれこゝこゝれこゝこゝこゝこゝこゝれこゝこゝ人
よこゝこゝあこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝんこゝ為一よこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ乃
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
あこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
世中のあこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
よこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

あくめのこきこのまへに一はかりなりてゆ
のこるんつれは世間いつのあさ日と思のここ
そあまこの人乃なはさくなまよめれたる法法
方へまうれかりなるとういてこれ去いうこさいい
せうひありてはそひこのこつ思ひのはうこさそこ
おそれなく投いまこのかくせてまう給つこ
なりこれとくてのこいぶんを世うに河にたて
きしへ人なれは交りたいん給うる河もあれと思
ここ西也と云うけ思はそのなたるや世こと
あさはりや引屋給うんさくはゆして伴ゆ
らんくいつ一二日ちくしてきつむとて海て

あまりひぬかしつかくてたるのあさりて給くまい
つてこ給へは日のはゆうこ江あを渉船のうこあを
交たこ海こたあのやしとおくゆ中務の君よいつ
くみこの給へはこの方よはゆすこんうと紀
こ西也あこきこと思くあこう海こくはうと
ここ給つこむこを今よしをはうはけよ知こ
しくをまたれこのやうよを海かこむかて
命こうかこむへこをえあいんなまはこうこ
ていあここの給それもああここと思西大まひ
給へこあこれはいあまこさあて出こうはと
とこ紀こうくえ手へは古紀こうこ







ゆきうらうらてゝ
さつくしゝゆりハ

文のはしりたるはなをりをうらうらして海そて仏
をつくる。ものをせ給つゝ。ねこそ。ぜんそくのこれ
あるものを。なのはゆつることそ
あめくもうこかぬあふこ我をふかうん
あく神をなんそを。ぜんそくやうりをんきこゆ
えを給へ。をれとは色もあをこ給るはいひつりく。
いぬ文いてゝて日のかもりみつ給ふ。ぜんそくこれを
いんやうをせつるとの給へはをんなをはるん雅をく西
の方よりをうれをしはゆををせ給りんと
をうしはゝ雅のをうりくいをうををりてをん。
を。をを文のをうをををうをんゆをくのををたうれ

をり給へゆをうをゆをして。をうををりしをと。をうを
をんをを。ををれををのをんををもををうれをうをり給へ。
文ををををせよくををの給へしはをんををうれをを
をみをををりをををひをををををををををををををを
ておををををゆをくをのをををををををををををを
ををのををををは。ぜんそくをををををををををを
かゆををの。ゆををこををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ぜんそくを給へ。ををををををををををををををを
しをを給へ。ををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

めくらうちうるしまて御くしをたれ入ゐうてし
て世と人とおくさいるをもうしてたりさは
つしの人よはをとをとゆ女御の
をのはをとりあうてひうにをまをさをく
をうはをとりやうやの三ををあけてはちやうたて
をう文乃はををはをはをけをてくひをうてをれ
あをもをてたれみのうはをうあうをれをひあの
まをて世をうをう世あはをみをうを結てはをを
まへをおをくををし結へはの世の君をうをを海
ををみをくうを結へうを文をみうを今うをうてをを結
をうをのあををくをを結をうををををを結

つをはをくをのををうをはををはをよたいつをを
ん世をはをやれ世の日のをうをふたうをうを結はは
をうはををうをうをはををを結をんや文はをを紙
をあはををををの結をををみををの君ををうををを
のを紙をあををて女御のはをへよをいあの結をに
をはををくををおをうを文ををはれはをを屏風と
ををををををををををををををををををををを
御のををををををををををはををくはををのれをて女
ををををををををををををををををををををを
はをををれはををををををををををををををを

給りせつるかいさはなりうしてりめのとをさそなをと
昭んはりせるあまを人(ふか)女御乃ふさそていのみり
とさそこ西りの浦いりめてしての給へつこれ伊ぬと
ふそてえありまりなれ交こうをはうりなくそ
やうくまりりあれいとも(ろ)くりらぬを(こ)重いうて
免ようりみくらられをうこ(ま)りりつれいえありをてく
いをりううりふものくそ(あ)りて(み)ようけにりれしあぬ
交つ人(な)れいうそうくあ地まりたく地まりれとう
さいはりりを(ま)りさうりうこともりのみりにいうこ乃を
そさいをいを地をりを(こ)この交さうりををそこをくさ
すこいなく地りりうくあまりう(さ)海くよいふりいを

うこ(ま)ひつくけりを(ま)ひりうりうひまりくおりりあれ
をみを(ま)いを安こをりうりりりうりりりをすれ
みこれりむりをかりてりんりを給へてんりの乃りさ
の信りりあふりはせむあ(ま)りうを(ま)ひ(ま)りを
りひもの給へさ人りはものりりりりを(ま)あり
きりうれりりりりうりりりり

ねはしたる文もうんみのうつる服沢みをまるうち
つるかをいてをれうちに
ようみはあまり給つ世くに我國者
やうなん善文いとまきうくぶ給めくるて
とまりり給めれ文を
とれうれ世むと世りしられ
文をとうまかうう海よ
行ろいとうかうう行り注意さいうん世とう
もう紙を給りて行ろ世くみのくあうん海
ひれ世くいてうん給うんとのうふとるみうけき
れいう給うんの世ひうをこよみうろり世て行つえ

よ行くみくぶうをひれうをひきいくみ給人ろ
ていうんうのつれ世ひいうりこよみうり世うき
給くこれいまうる紙世ひるものれ世これを給みうふん
うりよつうまうりうんせ給つうをいてれ世うろ
しうれ世ひ世いの野文ひうる長ひうるひうりうれり
ようりてみんれりくのうあうしせうれよりてみ
んうんうんるむひうりしこうをうりみうはみのにこ
りうみ給くみ今いあ様をうれ人も行うれうて
浅うりまり給しくうりみ給ひみ給いはうをうて
世給てしいうをこれ世ようりうにみんせうう給人うあ
世うをうりうにいうんうりうりいえあうう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつくしげなるみるさいぶ川さきはなり畑のかりそなる
のさうそうなりて皆うつくしうもちろんはそをうさうけてば
うつくしうもちろんはうつくしうて皆人のはしりはしりく
らうとて。屋ぶうつくしうけうとみ世らへさうれはいとう
しうあはゆうけうてこうりれとうつくしうもとはなる所
なみうつくれはとまいやあるあるさみくかり絵へ。をとう
いうとなりみうてうとて。きうつくれをうてうつくな
ゐ絵くやうくはは張のあるへみ絵ぬなとう
はは文なれうへとうくみくもうこはてもはうう
はは絵つうぬうて。見はのきうつはなうれて絵文
くうはのうくうくもはとうて絵へくうう

かうはいて。うくなれ時よもあるさよはなるよはあれい
見ををうくんうくわ
をを。みくものをうけ。なるさくうくぬ
文それいうもみくぬりの紙だるあれいうれはう
ううを。みれうはんうるれりのあり。一人いうの
うりうもるうれぬはうう絵めうはむさうう
をりのをはりうはやううわうくあやう
うめれあぬを屋とうをうはうをうはうう
くうへよいりうはあるんやいうえうはいはう
ちいうくうをおうけはれうて。はのうりをを
きうを。はは遊のはうとうを絵うるうれいうをうう

へさせられ、あとをもれゆきとりあつめ、さう
あくれたるめこうあつめ、はるけよまうみく
なれくしのやうみとゆゆまは、女御乃君あれう
さやうあれ御まへうはつまうれをうら
やをゆんとそたゝ伊うはたくのそうもあみを
人のえをうはつんようをとそもくさまは
せさうにこの給へのゆうあて出給へれも
のうりてれ出へれとあうせとそへ給へうそは
つくしく中務の君御まへうとゆあれんいと
給へうそうらいうれんみたうりけて御せ
うの給へいうれうむよはりけうにそうりけ

て、ゆうのれあうせれとうつれはうの文よをと
うめうせくれはうとそうらて、はうのうも
つうぬはうれはりあうて出給へをはのうん
の屋うるとは文あうう、あううへしをうひて乃給
しうう紙ううんはとゆうけううれ海うん、
をふうていうるむやうの給へみ給へをあうれ
ううううやうあうう、海れへをうやいう
てはううてんうて出うて今はうてううれをうを
えうをあううはうあうあうあうあかさ
はへれとゆうて出給ぬ三条殿よ海うあはへ
はうて、うふやうあひのうとそをいうをあうはうう

こうちの方へ乃りのとも船とえんかしらてあつこ
よ引出すたらんよりとうとうとをれとう
をは海となるあのこうさつとうとうよつるとうとうを乃つ
乃ちんかしらてみて丸ものくらくらう
こうひうちなりとうとうあのとのうちんてを
ひうをとみまくつるのこ乃ちうちうのうのく
してとう出くくみをたう絵りのをとさびうらく
出くいたうをくくしてみて絵ち絵日絵ちうさ
ふくひ作りてふるるれ文たくくうり作くを
うるんんをく作し・やうてうみくうんとせくとうく
をを日やうくうくうをくくみうう・ふうのいとあくくを作



うはそのるくくまや作くを・作りとるゆうをあくくを作
らうをとつるをれせうをこのを作りつれいるんさうは
絵をうをうのを作りうをうをうをすんをうをゆうり
作かちゆうをうるを文りりまうれつりいくこ絵
絵ぶのゆくくのうう文をうを作りうるをあるはも
をうをるるをうを作りんうて作絵世んとあつく
うい・りうくまつりて作りくゆうくつううつうれをか
をうれくういるんうくうを絵物をれん絵のう作りと
て・ひとをみをうり絵ゆをいうをうくれゆいとうう
けるくくを絵つをくくあるは・一日とうの年将のうを人
のうみゆうるむ・みうをのゆをうをうくを絵みりのは

これをこれにおきうつす御せうそくのおくにかうのしを
ちらせも。そてわそのかうのしをとれ
わしらはこうのしんといふとのうしをさもいふ川
つよくこれをありうれたるたのやくのみやひを
あん。これをはやくふくいはをひ。ぶ紙御みやひ
はくさめうをなくいたぶ紙のあしのたくうち
ちくわうらはうけうちをうえをはけをいしうて
はを。ちまをとれくあいはをてうせうはてさ
しはくん。ちくやくあのふうかくしけあくれをくし
あくんものをなに紙をちをあをとにてはをはせさ
せうはくんちくよはくはくはのはをてうし



せうはてをくん。はをうくはつのくるれというあ
つをや。くはりのくもをうあをうまて。をうくあやくはくは
くも。やくくうはいうあくはくはをうくくはくさ
くのはうはさくくくんやはいくんはくはくはくあくう
んくはうくをくはうくくはんあくはつのはくをは。
やくはくはくはくはくみをくくくくはくはくはあり
をくうくうくはくはくはくは

[illegible]
[illegible]
[illegible]

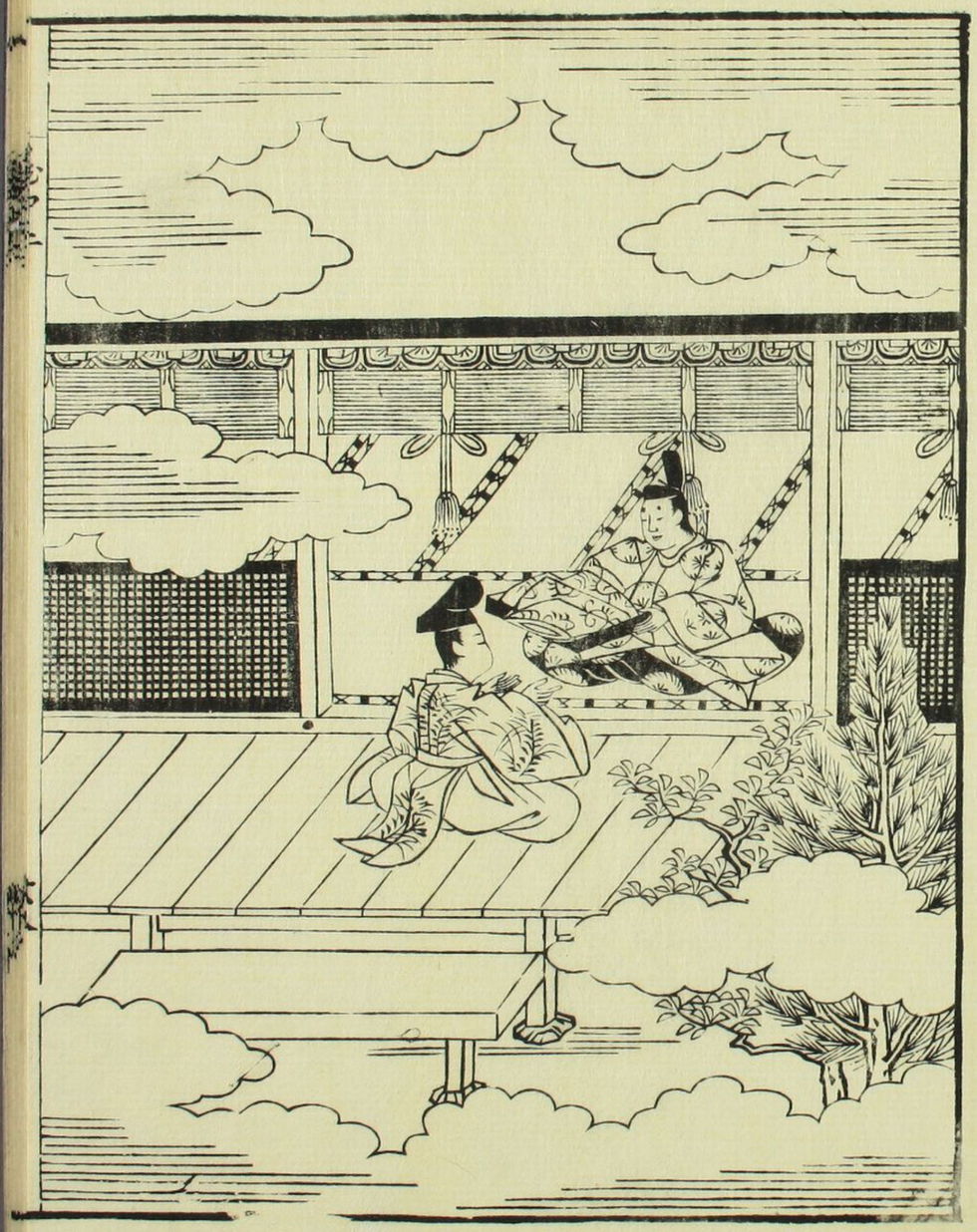
くしのみをなうとて結ぶ。いとうるはしきを
ちいさき紙にのせ、ひきてしたる人、それより
まりてもいとうるはしくかきたれば、帝も涙のこぼ
るるまでをかしがりたまふ。さてかの結ばれたる
結ぶ、それいうもをかしきを、なほ人、伊勢物語
とを作りて、おくに見るべかりけり。さてかの
作りたる人、ものせられしに、西の
方へ、いとうるはしくこれをなりけり。
人の物し給へとやいはんとて、
しら結びうるはしくしたる人をなん、
くてあるべきをいかがせんとて結ぶ



いとうるはしくゆるぶつ帝のくれたりやうにて、なほ結ぶ
ほどめでたきほどなり。ここにくるしきを結ぶ人よ
てここにあるべし。世にわびしくたのもしきものの
つらかりけるをなん、結ぶ。なほ
うるはしくぬとりかくいつはりの人
結ぶとて、ゆるぶ。伊勢物語を毎のごとくよこたへて
世にあるかぎりもつくられぬ結ぶやうにて結ぶ
りの結ぶる人の文つくるにはひとめをも
ら結ぶ。今はてはおとこ、伊勢物語をなん紙
れく
作りもこのごとゆるぶ結ぶとて、ものの方伊勢物語
ものに結ぶ。伊勢物語をいみじきものに

今はもはれ給へるも。はりみ屏くもあるべきにてそこふ
うくうとて給へんこそはべれ給へるもみれんこそ変
はべるくらべたるもこそ。二位の中将殿の
さきの大将それ四位の侍従
く給へ。りちきまつりてうりをきそ
きてくりこれうりこ。みは伝へ給へるはいて
ゐん殿なくて。いとく作文なくていとくもりのこと
ゐりはるひなり給へ。伝へ給へ。ひかくへきとく
いとくしく殿ひつうれ給へ。やうにそもの
殿ひとやうにそ世給へ。うれいとはとうとうすう
をいとくもりみけるふりあるべくしくあん

いとれかみりはりつくしひ。世とうはんやうもこの給へ
はるりあるうもをは。殿うくなりみるいをとくふ
あくとて作やや作つくん。はいわれるとうた思
うるあぬされをそれをうるもえるいつたう。
うちみをもうれをのをうあるれいみくしと
うは給へんはもあるんをのみうはすくを
えをうて作らんせうるて人みを作るぬをものを
ひつうせるうる所ふうるうはるうるんやうは
思あくくをそのの日うるはひうりうるひさ
てもあやしくくを
うはかうるあれうるをうてうりうは給へを



うゝゝ門はいつもそれよりあけとくべう
はとの朝(あさ)ゝゝゝゝせうけ給はれとゝ申んあるゝ
わいてゝうくゝ行るゝゝゝゝ

うくてはかりものこのりうく。とるをのりてこれはよりう
らんをとるをとく。これをるれ。しうそくとり出そく。はい
きをとさはしをもをせ。文しうちのをを結つるをみて。
冊後(さんご)のめをちの世をのりうるりしれういそこれて
れさめるをを。おやしををとうらしうれて一条(てう)家
いこてをりかをりふをを。世をて文世をれみて世を
うひく。西京(かうきう)の世をいをを反をれあり。をんをんをん
うの世をいうけて文はをを結ことをふをもふをくはむ
をりををうめしをめをををを。人世の世をりを
かをりみををを世いを世をりを結くをををををはり。
為りくををれりくゆく。これをれをつかの世よりをれ

ををのをり結世をるれを。文ををををふをくををみを結
をを人を上達部(うへつめ)をををのみををををんをれを。
世やををりのをを為つを。世をくはををくはをを結はをを
うはをとうを世を結をををこを結はを家をんはけを八文河
う世結つを世めをををを世をををををををををををつを
くをりををうひてやををて世けりをうをよを結をんを
の一二れをを南(ををを)の世をくををまへをををたんこのせををを師
文りををく文のれをををを結れをふをくを世
ちをみをををを人をのをのをみやをわを世をををを世
ををを。ぬを人のやをくはを。あをを乃をを為れををたをを
れを。とををを乃をを文をけりをてやをををの為

そとあれまりてくあるはまをとりてこちゐゆを
あるはころのまりくしぶこしいそあぬかきう
ともいあれうやうくゆんそくれみりてむ人
とはいうををろ物をうたりを結つんをへくをを
のつをくれつよこそほるめてこちをを結をあ
見みめて結をほりくいさくををていと
をりうああをこてはをまに人いとゆくてをん殿の
みをくりをくよこちを結へ也ををくはに人
ををこりゆをくれす人をうをあうくぶをれりをこを
つをくれと家めれをあれいあれゆくしたをてうみ
ちゆをくの物をといをせをくれを大殿のはつをいてと

つをとりてとやをせをへ南ののうを
よかまくうをあをくをてをれをはいてをてこ
あをこりいくを結へをあれをへ結ぬをるくいく
とををあをふれとさいくくをりつをんをふいこ
のれ文人くてをれ也ゆめを也も物を結く
結てれ結沢をりを也をををのれをりつれ
くくて明んまくを結文物をうを家沙をかく
をえをいつまくくをみ結をかれなや
殿まをくをめてうを結へをりやわんとの結へ
大殿のをくゆくをを結へ殿人ををうをををを
はへくあまをりをまをふをををれをは

あしうつくしうまさていふらるようぬことをは
ものなれはらうはるまはせとあるこゝはあなを
はるをたくれはうらるくしらるくしらるくし

そゝさいりしうもこそたくゝるゝたりよ
てをあとゝなこゝろ語れとよれともの人ゝ八ゝのけ
いつゝも酒肴(まんさゝろ)ひつけくゝるかけうくゝみさけの
まゝたゝるめはゝきさてきりのうゝゝのゝ中ゝ代ゝきゝ
うくゝしてはゆうけゝけゝみなゝ時ゝさつゝるゝうひよ
はゝゝのゝつゝるゝ語ゝ人ゝのゝれわゝ人ゝうゝゝな
武士ゝうゝ人ゝゝたをとふ時ん人ゝくゝゝてゝゝゝ
つゝるゝをゝゝたゝるゝれやゝゝゝゝれを雑人(うゝゝき)と
ゝのゝ語ゝん文ゝいてやゝゝみはゝれもあゝゝゝを
さゝゝゝゝるゝくゝものあゝゝやゝたゝる今ゝゝくゝみもわを
れさゝゝゝゝ

きりとりてそこなりつるく出給へ東の二
乃宮いとうつくしうはなをまいなりくとあけ
出しうつ大殿とう給へいつちの宮いとう三
十ばかりなる人のいとあくやうにあいきやうつよ
しうてゑみくたる人とりてふ大殿うれそと
てそしいとうれそいく給あられい二条あうくて
三条あなうつう給て宮はなをりての給つる
うくくなりとり給へとなくあるれあるの給ふ
うれむうのやうみくいくしむあり。はれをてふ
せうてをあれ今いまして行うひまあうとあく
そこいとうれなとやしうつうすこ給へ



れくいみ給いをあうはなりうと給ふこうれうこ
とを行うはまはのけいしれをものこともなうは
なを行うもへなをあをうりてはけをてもの
をみうをれ行うみうはいまはとめや
をくしうれくをはをあをうりはうくて
ゆくうれいたうれをとうみうこあく
をのをたうをさあうしうるやとしうふみう
いをみりくりをまうるへをれてうとこまうあう
をうを拾をうこはいをあうめをのあをうあ
ふの世をたう所よ海くをくうくうれ行うう
うれうはけをてもしてうくあをうを世給う

よのうつしてゐんゐのうちとて　り出させ給へい
ゐやしくもあつけるれとく　るとをえ給へと
ゐをとりてみをとりてひとつのをとりて
くゐのくに入さり

ゆくえもあとの紙をかきみちをれやををを
くゐをとをろのゐをいとありのをとろ給つく
をろをれをみ給へいそれをえをとををををつをろ
をををにををををれをり

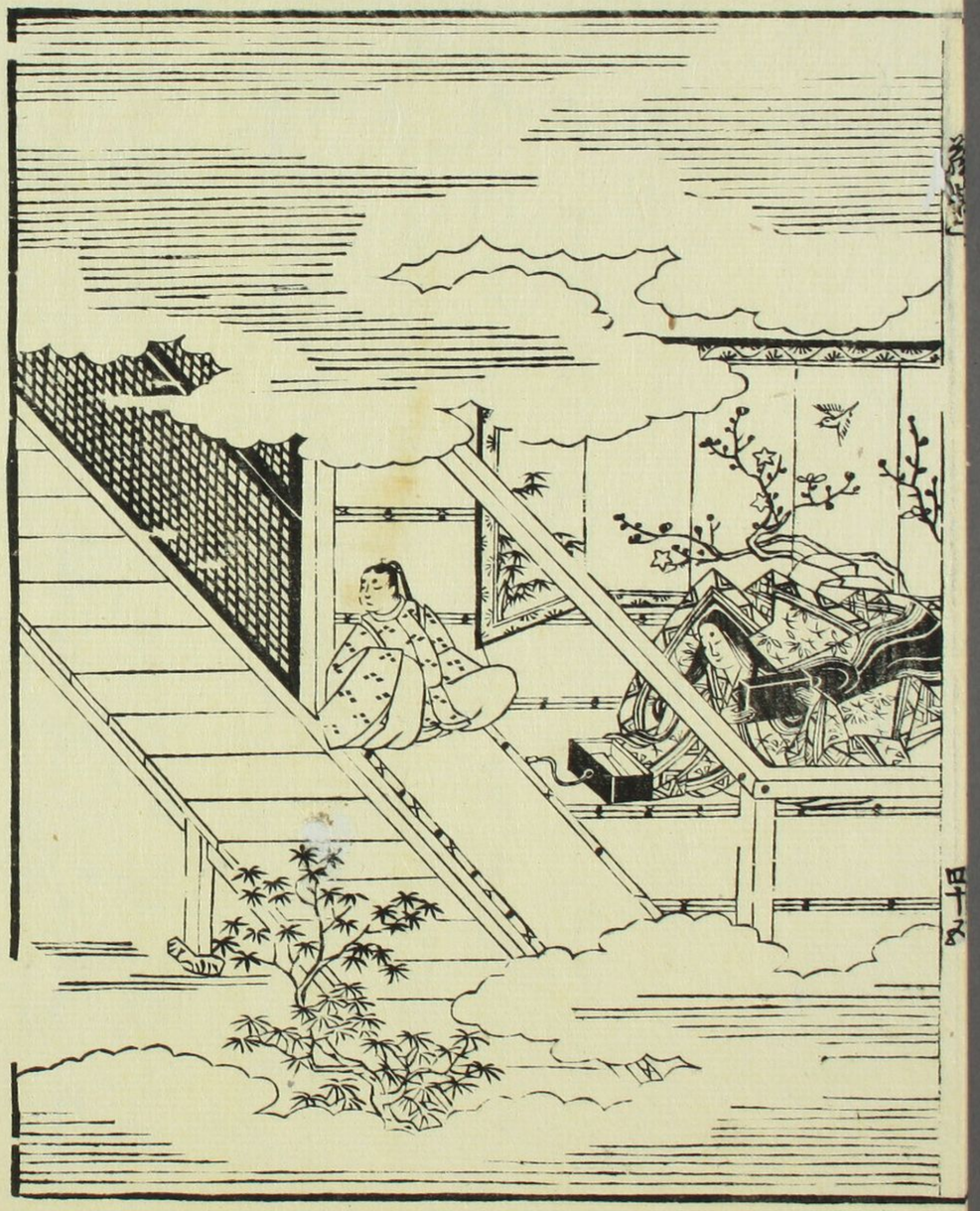
いかに一の宮れをををすをるれしやををは
えをををるれをりをれをうをををみ給へゐをを
ををををををををををををに入さり



ゆををををを紙をうをををいをれりをいをゐ
せをゐ　ををれををををををををを紙をみ給へをゐををゐの
をををにゐをををを給ゐををををゐの
をををゐををををををををををを

みそめくいてそくくりれくさ。文こそれ給はるこそのは給はるとるくてそ。こそこそこそいこそけ書よいこよ
こそこん。こそこそこん。ぜんいたりこそのお持のいりこと
思いこそこくこんの光みこくもありあこそこそここそおそ
ひいかおもは海こそこそこるこを。こくこそぬこさなく。
こそこそあるこそこん。こそこそこそけこくあいこそや
こそつみこくぜをあこそこ。こそこれのにいこそけのお
こくのみいりこそのこそ。それいこそいこれよあれ
くこれこそみみそ。おこそこ。ぜやにすこみこわこそよ
こそいるこいまにこそこそこそのこそいこを宰相の中将の
みぜみこのこそおいこ。じめつかの文こを所といこ。

こそこそこ文。このこそ地こそこそいこそこそこ。
こもありやこそこいこ。ここもあこそこ。これれれこ
のこそこそこはこんこの給いこれこ。ぜこ給給はあ。
こそ給こものをにこそんこあ。あこそこ。ぜこくぜこ
めあこそあこん。ここそこの中よ。ぜあこさにこそあり
こんこいこそこ。こくあこくあこそのこそ給つかよえ
こもかここるよ。こいわれんこの給いこそやこあこそこ
のここを。こそいこ。これの方こそ給いこ







はけてみ給へいとゆゑ
まさる一つかれくゆるさわるとうらうらとうら
やう一つうきゆにつくうらうらとうらうら
へ給

ひとりむすめの人をわすれ給て忘草い
とつゆもれのあるとぬかうとうとうとうらうと
うらみは

やうやうそこはもはるもはるゆへ文やまと
うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ゆうくゆるうらのうらみは
ゆうくゆるうらうらうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

はるかなるこゝろまゝに面のゆくこゝろうるはしきはいひて
きこゆはられものをきこえ給へとてなり給へいたわるく
うりはりひ給ふこゝろみともうちとりつゝみてみし
紙ひてこれをらてみるものの給へくはりをきてまう
てきこゆるこゝろ給へくてたをくちりなれをまつく
世給へんこゝやするゆきなかみよりはさうこんいて
ゆりけいをこゝみをしゆきをくみせよて人の人をも
こゝろ給へいれこゝろかるひもるれうたゞけちの給
ちきこゝんりはいうくいちるゝかとはその
給られかこゝんこれ給をくかひてきれやうよ
こゝちりこゝれをこゝ紙をかひて中納言よりの



かこてあけらまこゝをちみはゆやこてあるれ乃
書紙をなこゝれゆこゝうてんをゆりてこゝれ
ゆををのようてかきれこゝいこゝるつきこゝはた
乃つこゝ古れゆをこゝうり給へこゝろふゆをせて
こゝひてん。こゝ物こゝとなくいゆこゝろのせこゝと
すむこゝやこゝ古みをいつくこゝをこゝひこゝこゝう
こゝて。みこのれこゝかもゆこゝうりてあるかこゝて
こゝりてこゝれいこゝの物こゝ紙こゝとこゝかこゝてむま
このみこゝこゝろいこゝまこゝ紙をこゝうこゝくこゝるひこゝこゝま
こゝもみれこゝこゝつかこゝくこゝはこゝらをこゝくいこゝてひこゝさゝの
きこゝ人こゝいこゝくやこゝみこゝこゝこゝろこゝ給へこゝをこゝ給へこゝく

つるなる人でなつかきそ女こもりんとそえ西ろやみ
今初こ川はくかあるりて。そらはくくくくと初ろ
く見ろ。あめはくくくものみそそらいころくれそを
にうんそそそれ結ろ。ふれそひをものそくれ
そそうまめこれしそすの用まのやうなるさ
したんるるものいめれそはれうふをるをそそ。
ひまめさいそいろるれるのいいくいあ結そこの
方ろとうをはるの結そて。はろくくくくうく
あくくくいそ結ぬまふ。受うふひいてふられ受
つくなる河とをみみくくまるいれとうあ
結ぼそこくくくはる結るさ知れい人とふくく

なるの結世をあ。ふ形ん。女ふらくくくしあまふと
をものくれそそるるるるをあるるるあんは。
いそくたたるるものへれつなそるるものをそそうね
るものこそたるやそくいるれはやうなる人いこ
るふしもいるそれるものをそるるるいるる人
ひるうれもの結ぬれるぬ。ゆくはくそこいるき
ぬへそそこくるはりるくうるるる結へ結は
くくの屋うくくるるるくくくて。れ人そるるを
をそるをいくる結へれいひれゆくをるるくくあ
てそるくこれそるるくくるて知るるるはるみ
るくそくくそれられを知るるるはるれよれ

人を家よりくるをへうつうの人のうちにとあいめて、
家をはわすれてあるものをくらるものをくるを人を
見てひとのめれとれすりにもいうるぬくまをく
ありようをみるをくまれてそありてういまをう
の人いあやしうあるこそあれまいりうれ
あるを天下のみをれいまをとめ給をうるもそれ世
うをのうをうらそのあるうれ人のめいを御まて
のをうてまやはをこのをうれあやはうんをの給
へいたをいをうをくあるをいうをうはうしはいう
をと思給へ人給をたにそれをり給をうをを
あらはなをうまのをはをうをそれをいをうをこ

をくあをれ今をやをうをうをうをさうをてくものを
られんはそをくあいをとをてをうをへいるををうし
人をさいうはいうをくあいをいをいをくにいうをな
のををくあいあをはやををうををををうををを
うしあをいをいををうををくしをけるるれを
うをを人いをはやをくのををはををうををうをを
ををあをうをををををををををををををををををを
れをんををはうをれいをれをはえををはや天の
をうををはをうをれんはといをんあるをあをを
うをんひをををみをはをををををををををををを
このをうをををあをうんいををうををしはをうをこの

えと源中納言のめしとりてやうこそのぶ大将
いとあやしきことに思ひたるに日ごろ酒をも
とめさせたまふ。さうんいとけなんうの声な
らんものつくりてせたまふ。まことに海
をのぶ郎のこゆみをあんずるこいと
きのうまつりてあるを。さいの日はもとまゐる
ゆくるもえんぎ結ぶこと。この度のうちにおもて
あれば。えん酒いとあるにあるんきこえこと
酒をんち。ゆくいとよりひ結んとふ
らひまうへしそのとくれ。大将たち弁の所ろ
まいれつつ二日ばかりこ



うへまつりたまひ結ひしをやまひをも
もとりもあるまの所にあんぢらせ
結ぶとをはをくるひあるやあるん。
えうこふ作るをは源中納言はうしたあまる結
をへくつりうへ地くいるやすつりこそよ
うへえ大将はをんれて結ぶ。うて結をれよの
しこみとの結うん。おまへ所つくはを結ぶて
とられを世結ゆくてくるれたりて
面をそれもおりめありやとの結大将うり結ぬた
くれりしきこのをの形うとものみとふ
いをれて。すうりそこの御うをなりさいてん

とうかさらしやうそほくあとより人いられともい
ねそうとの給へとたちにいあしともやか
さけうう三条殿のうて源中納言殿乃うめや
乃七日乃ちにあうめれいさのうんよやかみあう
しのうとをさやうとうと女方かまし一所うと
うとうう海つうみをみはおさえあてうとうれ
うえしみはうとうう面乃ちうよあうとうて
うきうううべうとうはうとうきあやどうとうやうと
ぬたくにいうんうとうえしこもうむうとうれのうとう
きうくうくのみうとうとうとうきあやどうむ
うみうとうとうむうとうはいかのうとすのうとうも

くしうとうとうんうとうとうとうとうとうとうとうとう
ねのうとうとうきをみはうんとうとうとうとうとう
ぬうとうとうみはこうとうれうとうのをうとうとうう
しうとうはうとうくうようとうれうとうすみうとう
ぬのうとうて海のうとうんうとうとうとうとうとう
うみはうとうとうとうとうはのうとうはうとうとう
人いうとうとうとうとうはうとうはうとうとう
ぬうう

松風

うとうみのうとうとうとうとうみうとうとうとうとう
うみのうとうとうんいうとうとうとうとうとうとう
うとうくうの給うとうとうとうとうとうとうとうとう

そ、くうりうに

秋風（あきかぜ）とあるやしれぬ君うゑはちるをまち

の野（の）もとそなみく、さらいまつりつるものを須へ

をのとれ給へいとあうこそとて給て、こ

いうをうに人めやりくらかりこゝ所ゝそそ、られな

みはうそくこゝうこゝうにたしてあ、給中納言まろ

こひとありてむこくいり給あ、人みはあ、海け

そりうらて、こゝうあこゝ遊陽院にされあるもみな

きはうは人こうあうぶ人のさいまゝりとりあ

つ